

富山県感染症発生動向速報

(2026年第26週分・6月22日～6月28日)

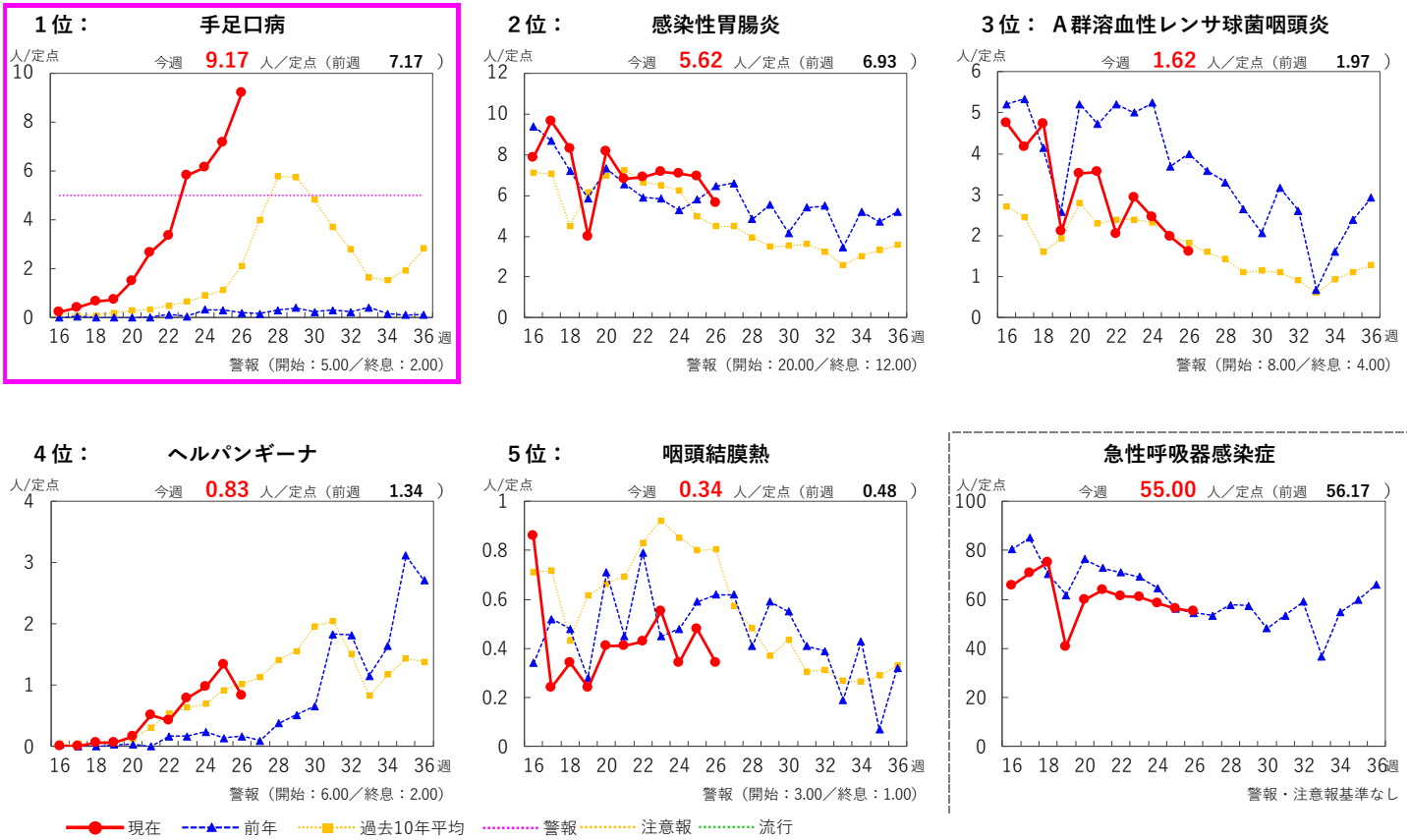
■今週の主な動向

- 手足口病の報告数が9.17人/定点となり、4週連続で警報開始基準を超えています。
2歳以下の乳幼児を中心に報告数が増加しています。特徴的な症状は、手のひらや足の裏、口の中の水疱を伴う発疹です。おむつ交換やトイレの後、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。(第24週インフォメーション参照)
- 麻しん(はしか)が今週3例報告されました(2026年第26週時点累積5例)。
麻しんは、風邪症状の後に高熱と発疹が現れる特徴があります。感染力が強いため、過去の罹患歴や2回の接種歴が確認できない方は追加接種をご検討ください。(第25週インフォメーション参照)

■定点報告の感染症

今週の富山県内上位5疾患+急性呼吸器感染症 (第26週・6/22～6/28)

警報



厚生センター(保健所)管内別、直近の推移: <https://www.pref.toyama.jp/1279/kansen/#a-6>

■全数報告の感染症

- 二類感染症 結核 2件 (①第25週診断分: 20歳代、女性 ②70歳代、女性)
- 三類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1件 (50歳代、男性、O26、VT1)
- 四類感染症 レジオネラ症 1件 (50歳代、男性、肺炎型)
- 五類感染症 侵襲性インフルエンザ菌感染症 2件 (①10歳未満、男性 ②70歳代、男性)
- 侵襲性肺炎球菌感染症 2件 (①40歳代、女性 ②90歳以上、女性)
- 水痘(入院例) 1件 (70歳代、女性)
- 梅毒 2件 (①第21週診断分: 60歳代、男性、晩期顕症梅毒 ②20歳代、男性、早期顕症梅毒Ⅰ期)
- 麻しん 3件 (①20歳代、男性 ②③共に40歳代、女性)





てをあらおう

未就学児は要注意！！ヘルパンギーナ

《インフォメーション》

●ヘルパンギーナ

県内のヘルパンギーナの患者報告数は、今週0.83人/定点となり、第21週（5/18～5/24）頃より増加傾向が見られましたが、第26週ではやや減少しました。しかし、全国では増加傾向が継続しており、例年夏に流行する感染症であるため、今後も注意が必要です（右図）。また、第25週時点では、

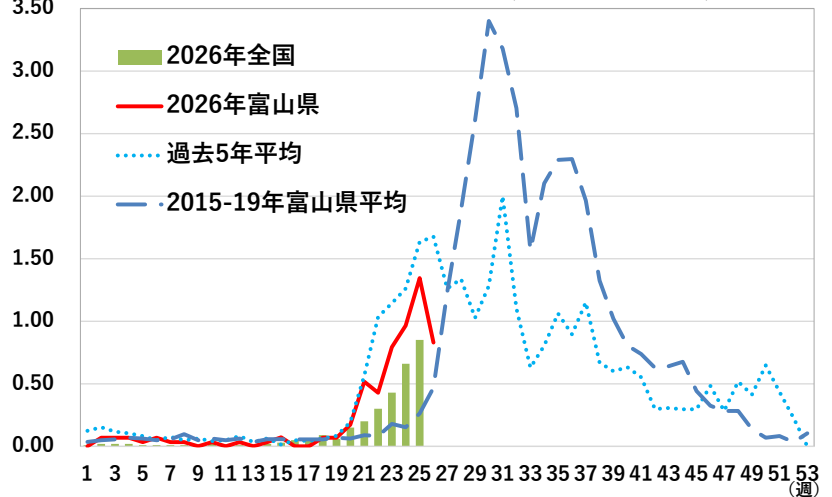
全国的には西日本に報告数が多い傾向です（下図）。患者のほとんどは5歳以下の未就学児なので、小さなお子さんのいる家庭や施設では感染予防を心がけましょう。

ヘルパンギーナは、コクサッキーウイルス、エコーウイルスなどが原因のウイルス感染症です。2～4日の潜伏期の後、突然40度近くの高熱がみられます。また、口腔内に水疱ができ、のどの痛みやのどの奥に発赤がみられるようになります。水疱はしばらくするとつぶれて痛むことから、十分な飲食ができずに脱水状態になることがあるため、水分補給を心がけましょう。熱は2～4日で下がり、一般的に経過良好な疾患ですが、発熱時にけいれんを伴う場合があるため注意が必要です。

感染経路は、患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスによる飛沫感染や、ウイルスが手などを介して口から入る接触感染です。症状がなくなった後も、2～4週間は便からウイルスが検出されることがあります。次のことに注意して感染を予防しましょう。

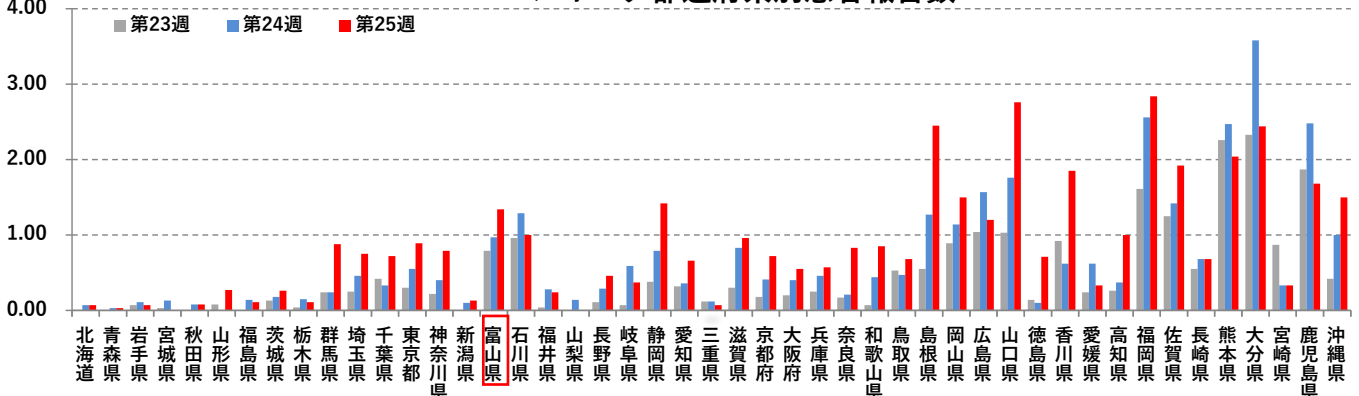
- ▶ おむつ交換やトイレの後、調理や食事の前には石鹸で手を洗う。
- ▶ 保育所・幼稚園などの集団生活では、タオルの共用を避ける。
- ▶ タオル等の消毒には、次亜塩素酸ナトリウム溶液を用いる（アルコールは効きにくい）。

ヘルパンギーナ患者報告数（全国、富山県）



【人/定点】

ヘルパンギーナ都道府県別患者報告数



○感染症発生動向調査報告状況（2026年第26週 2026年6月22日～2026年6月28日）

分類	疾患	今週報告分（第26週）					累積報告数（2026年第1週（2025年12月29日）～）						
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	計
二類感染症	結核					1	1	2	2	12	5	28	49
	（再掲）結核：無症状病原体保有者を除く							2	1	4	5	18	30
三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症			1			1	2		5		2	9
四類感染症	E型肝炎									1			1
	レジオネラ症					1	1	1	2	6	1	8	18
五類感染症	急性脳炎							1				1	2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症									3	1	5	9
	後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む）											1	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症					2	2			2		4	6
	侵襲性肺炎球菌感染症			2			2	2		6	2	4	14
	水痘（入院例）		1				1	1	1			2	5
	多剤耐性緑膿菌感染症											1	1
	梅毒					1	1	3	2	7		12	24
	破傷風											1	1
	百日咳							1				7	8
	麻しん			2		1	3					3	5
急性呼吸器感染症（ARI）定点（48定点）	急性呼吸器感染症（※1）	262	211	839	199	1,129	2,640	8,131	7,408	27,839	7,869	35,245	86,492
		37.43	42.20	64.54	28.43	70.56	55.00						
	インフルエンザ		4			1	5	1,443	1,211	3,344	1,431	4,686	12,115
		0.80				0.06	0.10						
	COVID-19		2	6		3	11	274	145	284	148	525	1,376
			0.40	0.46		0.19	0.23						
小児科定点（29定点）	RSウイルス感染症			4		2	6	29	11	130	28	104	302
				0.50		0.20	0.21						
	咽頭結膜熱	2		4	1	3	10	31	22	181	1	72	307
		0.50		0.50	0.25	0.30	0.34						
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	4	17	2	21	47	142	189	1,330	217	1,230	3,108
		0.75	1.33	2.13	0.50	2.10	1.62						
	感染性胃腸炎	18	16	19	10	100	163	679	562	1,064	274	3,326	5,905
		4.50	5.33	2.38	2.50	10.00	5.62						
	水痘			1		2	3	3	15	38	9	95	160
				0.13		0.20	0.10						
	手足口病	2	8	81	5	170	266	9	60	460	49	529	1,107
		0.50	2.67	10.13	1.25	17.00	9.17						
	伝染性紅斑				1		1	8	3	22	9	12	54
				0.25		0.03							
突発性発しん		1	2	1	2	6	6	18	75	21	87	207	
		0.33	0.25	0.25	0.20	0.21							
ヘルパンギーナ		2	12	1	9	24	15	21	51	9	70	166	
		0.67	1.50	0.25	0.90	0.83							
流行性耳下腺炎			1			1	3		3	1	7	14	
			0.13			0.03							
眼科定点（7定点）	流行性角結膜炎			1			1	9	2	9	1		21
				0.50			0.14						
基幹定点（5定点）	細菌性髄膜炎											1	1
	無菌性髄膜炎							1					1
	マイコプラズマ肺炎				1		1	9		3	3	5	20
					1.00		0.20						
	クラミジア肺炎										2		2
感染性胃腸炎（ロタウイルス）									1	1		2	
入院サーベイランス（5定点）	インフルエンザによる入院患者（※2）							55	41	49	40	102	287
	COVID-19による入院患者							18	16	7	11	58	110

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

※1 急性呼吸器感染症は2025年第15週（4/7～）より開始しました。（参考：<https://www.pref.toyama.jp/1279/kansen/topics/ari/>）

※2 インフルエンザによる入院患者累計報告数は、2025年第36週（9/1～）の集計です。